白子川源流通信

2016年12月　第49号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

◆源流まつり 大泉南小4年"白子川博士になろう"
◆源流まつり ユニーク企画～開発秘話
◆泉新小5年「川、いいねえプロジェクト」
◆オオイシソウのこと
■白子川アユレポート
□定例活動報告

白子川を愛する博士たち

博士をめざす4年生

白子川についての最強の博士は大泉南小学校4年の児童たち。総合学習のテーマ「白子川博士になろう」の発表は源流まつりのメインイベントです。

生き物、植物博士

毎月の定例活動で地道に水辺を覗きこんで、川の水質や水量、魚、植物、動物などを詳しく調査し貴重なデータを積み重ねています。

カエル博士

自宅の庭はカエルなどの楽園。カエルを見る目はやさしく、白子川にカエルが増えることを願っています。

ホタル博士

源流近くの自宅の広い庭で長年ホタルを育てています。「白子川にもホタルを復活させたい」と熱く語っています。

メダカ博士

16年間、苦労を重ねてクロメダカを育て、源流まつりでは地域の人にたくさんのメダカをプレゼント。

16年目の「白子川源流・水辺の会」は、"博士"たちと多くの会員が、老いも若きも一体となって楽しく活動しています。地域のみなさま、これからも白子川ともども、どうぞよろしくお願いいたします。

リレー表紙 4 （文・鈴木安友／写真・菅沢 博）

定例活動 報告

8月　9月　10月　11月

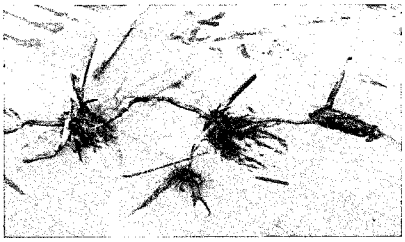
＊源流域・水の測定データ

測定地点	項目＼日	8/28	9/25	10/23	11/27
	天気	☁	☁	☁	☁
	気温℃	23	28	16	12
源流部	水温℃	18	19	17	16
	水深cm	35	30	22	22
	pH	6.8	6.7	8.3	8.0
井頭橋	水温℃	18	18.5	17	14
	水深cm	51	51	38	38
	pH	6.9	6.9	8.4	8.0

※このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。pHは水素イオン指数で、pH7が中性、これより大きいとアルカリ性、小さいと酸性を示している

源流で勢いづく ウキヤガラ

5～6年前には、下水吐け口のあたりでおとなしくしていたウキヤガラでしたが、田んぼのようにドロ深くて水位が浅い「井頭池」がよほど気に入ったとみえて、あっという間に勢力を伸ばしています。10月23日の定例活動で、地下茎を掘り起こしたら大胆な地下茎（写真）を確認！



かつて、「井頭池」の全面を覆ってしまった外来種・オオフサモと同様の危機感を私は感じています。このまま放置すると、①水中にゆらゆら揺れる水草が好きなホトケドジョウにとっては生息しにくい、②カワセミがダイビングできない、③コサギやカルガモの活動範囲が狭くなる、④地下茎が蔓延しつくすと、最後は「陸化」のおそれがあるなど、マイナス面が多いので対策が必要です。○か×ではなく、また放置でもなく、他の植物と棲み分けできるように手を加えたいと思います。

（菅沢 博）

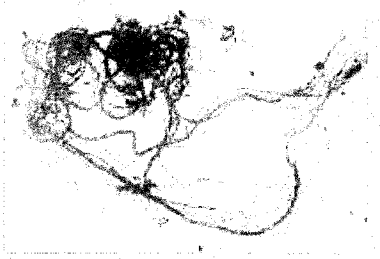
活動記録

9/10(土) 源流まつり実行委員会②
25(日) 定例活動
10/ 4(火) 生協パルシステム助成金授与式
9(日) 源流まつり実行委員会③
16(日) 第16回白子川源流まつり
23(日) 定例活動
28(金) 泉新小5年生、総合学習で白子川授業と川体験スタート
10/31(月) 5月放流アユの生育調査(2回目)
11/ 6(日) 秋の鳥調査
18(金) "源流の森"勉強会から研究会へステップアップ
27(日) 定例活動
30(水) 泉新小、研究発表会(参考出席)
12/14(水) 会報49号　印刷

※毎月、定例活動前日に運営会議

源流で発見した
オオイシソウ(藻類)のこと

須貝郁子



愛媛県総合科学博物館HPより

(コンプソポゴン属 *Compsopogon oishi* Okamura)

9月下旬、晴れ間をぬって白子川源流へ水辺観察に行きました。カワモズクが盛んに発生し始めておりました。帰りがけにミズヒマワリの水中茎を採取したのですが、その茎にオオイシソウが付着していたのです。オオイシソウを見たのは初めてでした。

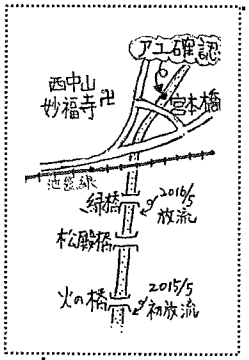
さっそく、オオイシソウの研究者である中村武先生に相談したところ、昨年川越市の水路でオオイシソウを発見された橋本悟先生をお尋ねするよう連絡して下さり、同定*をお願いしました。持参した藻体は1.5cmほどと小さく若いものでしたが、「確かにオオイシソウであろう」とのことでした。

オオイシソウは淡水産の大型紅藻で、昔は福島県以西によく見られた藻類ですが、環境の悪化で生育地が減少し環境省の絶滅危惧種(Ⅰ類)になっています。都内では近年の報告はないそうです。オオイシソウの皮層細胞は石垣のような表情をしていて、藻体は大きくなると50cm以上にもなります。また、生殖が確認されていない面白い藻類です。

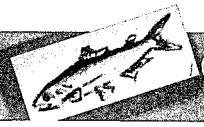
(白子川と流域の水環境を良くする会 事務局長)

(和光市在住)

＊同定…生物の分類上の所属や種名を決定すること。



白子川アユレポート ②



井口卓磨

10月31日に宮本橋下の深みにて(5月にテスト放流した)アユ調査を行いました。結果は5匹でした。大きさは最大14センチで小さいものは9センチ程度と、個体差がかなり見られました。しかし目視では20匹程度が見られました。とても逃げるのが上手くなっており捕獲が大変でした。

そして、そろそろ気になってくるのが、白子川のアユが産卵の準備をしているかです。新座市を流れる黒目川では立派なサビがついたアユ*がたくさん見られました。水温が低い白子川でもそろそろ産卵の準備をしていてもおかしくないのでは？ と思ってます。

次回はアユが卵を持っているか、また下流で稚魚が取れているかを確認し報告したいと思います。 (白子川源流・水辺の会所属、立教新座高校2年)

＊サビアユ…秋の産卵期のアユ。背に鉄錆のような色の斑紋をつける。

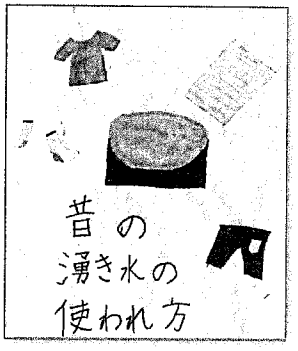
☆小学４年生がしらべたこと

“白子川博士（はかせ）になろう”

第１回白子川源流まつりから、大泉南小学校４年生による白子川学習の発表を行なっていますが、今号では発表全チームの一部分を紹介します。

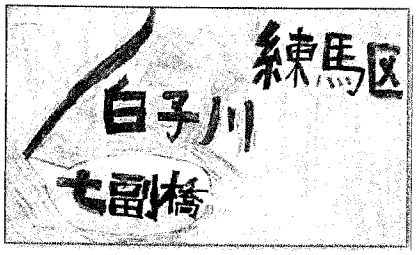
きれいな湧き水

昔は、白子川は湧き水できれいだったから、野菜を洗ったり、洗濯したり、馬の飲み水にしたりした。（湧き水の仕組みもしらべた）



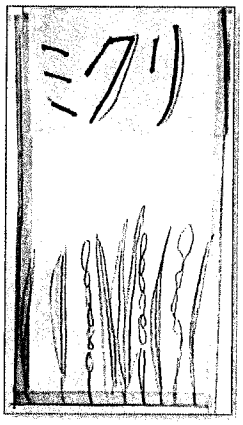
白子川マップ

白子川の上流から中流、下流、河口までをしらべた。流域面積 25 ㎢、河口延長 10 ㎞。



白子川の植物

しらべてみて思ったのは、白子川にはミクリなどたくさんのめずらしい植物がいっぱいあって、いいなと思いました。

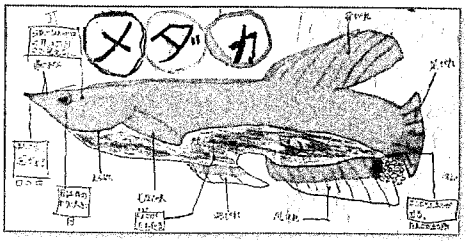


ホトケドジョウ

白子川はホトケドジョウにとって暮らしやすく、卵もうみやすく、エサも多いのですみやすい環境になっている。（注）絶滅危惧種なのでつかまえても持ち帰れません。

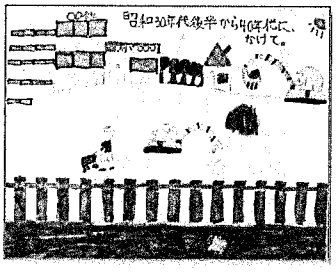
ザリガニとメダカ

ザリガニやメダカやカメを細かくかんさつして絵にかいて、どんな特長かをしらべた。



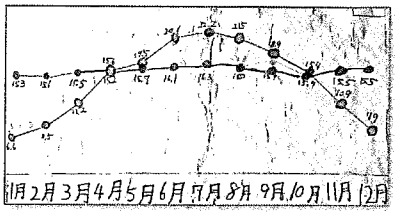
白子川の歴史と伝説

白子川は昭和 30 年代前半まではとてもきれいで飲み水にも使われていました。



白子川の水温

清水山の湧水温度と白子川水温の月別の比較をしらべました。湧水温度は、最低が 15.1°、最高が 16.3° と変化は少ないが、川の水温の最低は 1 月の 6.6°、最高は 7 月の 22.2° でした。(2003～2013 年の平均)

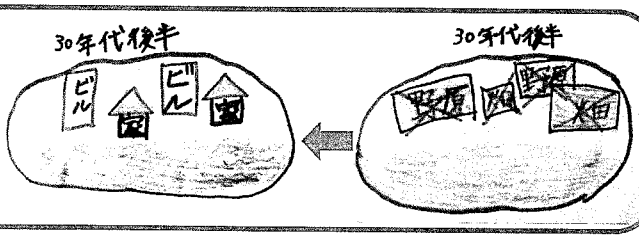


ふしぎなプラナリア

プラナリアは水がきれいだと 11cm にのびのびとしたが、きたないと 5cm ほど小さくなっている。プラナリアは水がきれいかどうかを教えてくれている。

白子川がよごれた原因

白子川は昭和 30 年代後半から川ぞいの野原や畑がつぶされ、かわりにビルや住宅が次々につくられて急によごれてしまいました。



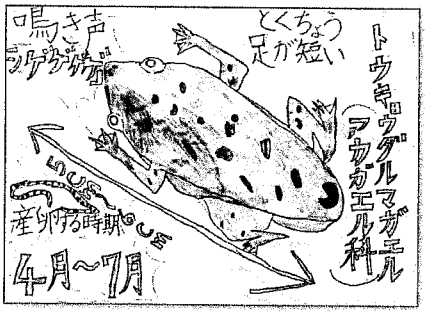
白子川クイズ

◆ザリガニはどこにかくれる？
①川の石の下　②公園の木の下
③公園の土の下
◆ドジョウは冬眠する？
①する　②しない　③するときもある

感想　白子川の生き物はいろいろなことをしたりして、みんながんばってると思いました。

生き物のとくちょう

白子川のいろいろな生き物をスケッチしました。



和田先生のコメント

4 年生は総合的な学習の時間に、「白子川博士になろう」という単元名で学習に取り組みました。

白子川に関心をもつきっかけとして、まず川に 2 回入りました。たくさんのザリガニやエビの赤ちゃん、ギンブナやホトケドジョウをつかまえて、子供たちは大喜びでした。ホトケドジョウを通して、「絶滅危惧種」という言葉も知りました。また、源流の会の方のお話から、昔の白子川では子供たちが川遊びを楽しんでいたことや、プラナリアというかわいい生き物がいることなども知り、興味をもちました。

このような体験を通してもっと詳しく知りたくなったことを、南大泉図書館から本を借りて調べました。各自調べたことを班でまとめて学年で発表しあい、また、代表の児童が源流まつりでその一部を紹介しました。

この学習を通して、白子川を身近に感じ、白子川を大切にしたいという意識を子供たちがもってきているのを感じます。うれしいことです。お世話になった源流の会の皆様ありがとうございました。

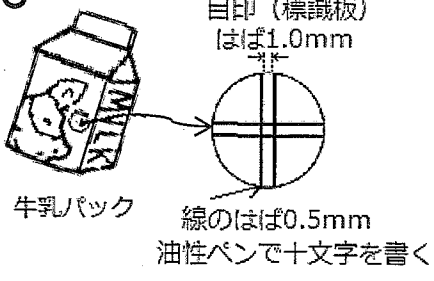
水の透明度を測る「ペットボトル透視度計」にチャレンジ！

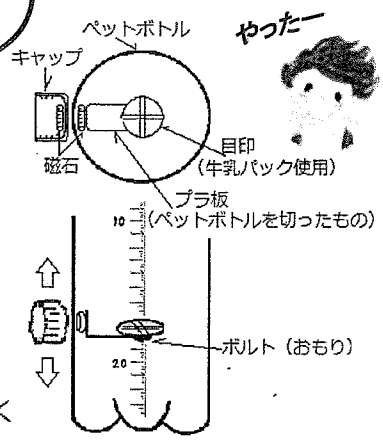
市販のものは・・・

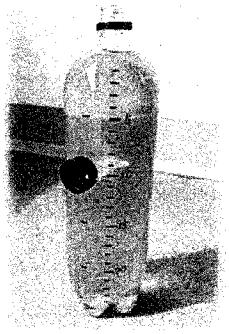
底に目印（標識板）が固定されているため、水を抜きながら測定しなければならない。その都度、給水と排水を行うので作業が大変である。どうしよう…

あっ！ ひらめいた

磁石を用いて目印（標識板）を上下に移動させることが出来ると、水の量を変えずにすむ。そのため給水と排水の必要がなくなり、作業がしやすくなる。



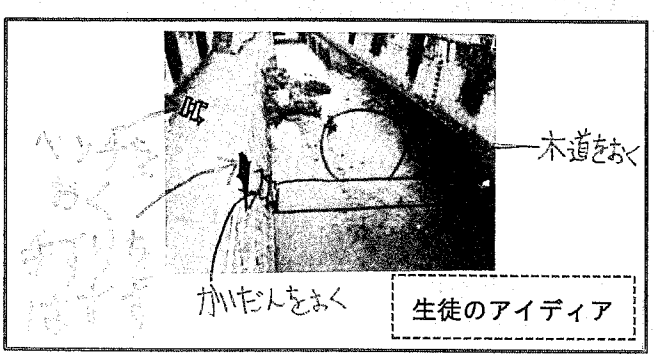




【当日の様子】

見ている子が多かったので、声を掛けて参加してもらいました。すると、楽しそうにチャレンジしてくれていたので良かったです。また、大人はペットボトルに採水された白子川の水を見て、その透明度に驚いていました。 （望月 孝）

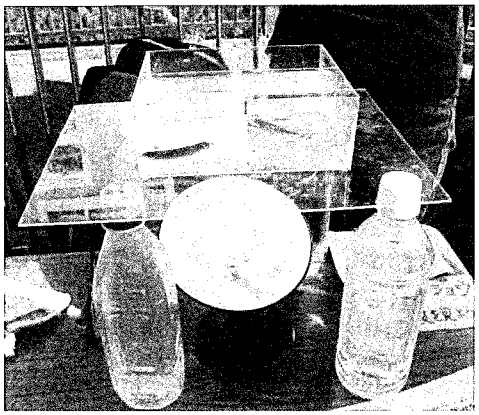
「川、いいねえプロジェクト



生徒のアイディア

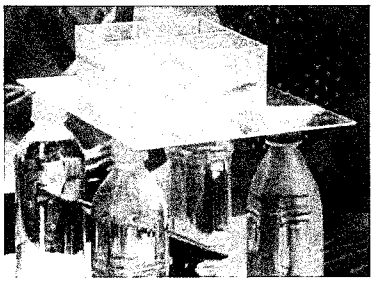
泉新小の亀山先生との出会いは源流まつり会場でした。先生からは、総合学習の題材として白子川を取りあげている５年生の学習支援依頼があり、まずは川体験しようと10 月 28 日（金）に区の許可を得て、学校近くの白子川（河川整備された親水エリア）に入りました。

ホトケドジョウのお腹が見える装置



まつりの展示で近頃はすっかり定着した感の装置ですが、私が初めて参加した2012年からの物だろうと思います。この年は確か、まつり史上初の雨で、急きょ南小の体育館で開催したように記憶しています。

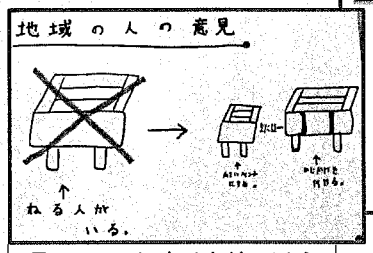
新参者の私は「生き物の担当、お願いね～」と言われて安請け合いしたものの、どう展示したものか思案投げ首。ふと、当日の参加者むけチラシのクイズのなかに「ホトケドジョウのお腹の色は、◯らさき色」（だったかな）なるものを見つけ、「これだ！」とポンと手を打った次第。あとは職場へ帰ってありあわせの材料をかき集めてセッティング。

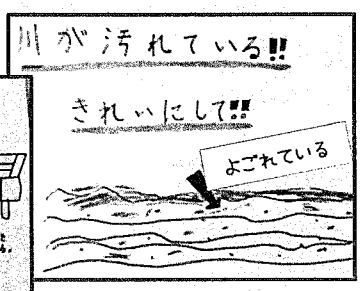


ポイントは仰角45°の鏡（上の写真）を水槽の下に置いたこと。展示机と同じくらいの高さに目があるちっちゃい子たちに透明水槽の底が見やすいように、と考えたのですが、見に来た人たちを観察していると、むしろおとなの人にとって無理に腰をかがめて見上げる必要がない、中高年に優しい装置となっているようです。（小川 郁）

～WE LOVE 白子川～」――泉新小５年生の総合学習支援

また、11月30日（水）には、他校の先生方30人ほどが見守るなか生徒たちの研究発表会があり、私も参加しアドバイスを行いました。生徒たちの水辺改善アイディアは素晴らしいものでした。（菅沢 博）





長いベンチは、ねる人がいるから短い方が良いという地域の人の声

白子川の生き物 48 / 横山 松栄

カワセミ

白子川で見られる水鳥の一つにカワセミがあります。この鳥は、体の大部分が鮮やかな青緑色と朱色からなり、スズメほどの大きさの小さい鳥ですが、大変人気のある鳥です。

以前は、この近辺では三宝寺池や富士見池で見られましたが、数年前から白子川に飛来するようになり、小魚を狙って飛び回っています。木の枝にとまり、小魚がいるとダイビングして魚を捕まえるので、体の大きさの割に嘴が大きいのが特徴です。メスもよく似た体の色ですが、嘴の色が違うのがこの鳥の特徴です。オスの嘴は黒く、メスの嘴の下側は赤い色をしています。体色について詳しく説明すると、頭と背中と頬の辺りは青緑、胸と腹と眼の前後は朱色、喉と耳の辺りは白です。巣は切り立った河川護岸の土壁に穴を掘って、蛇や犬、猫等が近寄れないところに作ります。繁殖期の求愛行動で、オスが魚を捕まえてメスにプレゼンすることが有名です。

(写真提供は南大泉4丁目在住の坂田様です)

これからの活動予定

12/15(木) 生協パルシステムが当会ヒヤリングで来訪
25(日) 定例活動
1/22(日) 定例活動
2/26(日) 定例活動
3/26(日) 定例活動

※運営会議は定例活動の前日です

みんなの白子川

パルシステム東京の助成金決定 !!

この秋、多くの皆様から絶大なるご支援のカンパをいただきまして、本当にありがとうございました。

今年度は当初から何度か助成金申請を行ってきましたが、ようやく、「生活協同組合パルシステム東京」の「2016年度パルシステム東京市民活動助成基金」が決定しました。2016/4/1～2017/3/31 において200,000円。白子川の水辺再生と地域活性化のために使わせていただきます。

pal*system

定例活動 毎月第4日曜 午後1:30～

どなたでも 川にはいれます！

編集後記

▼今回は、大泉南小4年生たちの「調べ学習」の研究テーマを特集した。実は、この南小以外でも、幾つかの小学校で白子川に対する関心が高まってきているようだ。子どもたちの心に「白子川」が記憶されることは貴重だ。新しい仲間が増えることを心から喜びたい。(あ)

▼白子川沿いに犬の散歩をした。日差しのある河川敷は緑に彩られ、人の暮らしが明るく漂う。片や、陽の届かぬ道に沿う塀や建物はどこか物悲しい。こんな小さな川を挟んで向い合う小道なのに、まるで違う世界。この二つ世界の境界は川のどこ？(さ)

▼宮本橋の下で井口君がアユの観察をしていると、「ここに魚がいるの？」と、通りがかりの方から声をかけられた。聞けばお近くに住み、釣りの経験もおありとか。「日に当たって光る魚の背びれが見えたらいいわね。これから川を覗くわ」。嬉しい出会いでした。(け)

発 行　白子川源流・水辺の会
編 集　東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題 字　宮本沙海
発行部数　1,300部

代 表　菅沢 博　03-3923-8430
練馬区南大泉1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年3回発行しています

pal*system パルシステム東京　この事業は「パルシステム東京市民活動助成基金」の助成を受けて実施されています。